

宝塚市自立支援協議会 専門部会「しごと部会」

令和2年度活動結果報告

I 開催日時 第1回 令和3年2月25日(木) 出席者15名 13:30~15:00

II 要旨

①第1回しごと部会(2021年2月25日)

1. 今年度の委員体制について

- ・新任委員も含めて、自己紹介を行った。

2. 報告事項

○地域生活支援拠点等の整備について(宝塚市役所^{がい}障害福祉課 本田係長)

- ・全体会は12月25日に実施、その際に行った「地域生活拠点等の整備」について、資料の説明を行った。

P2 :整備プロセス・整備類型・概要の説明。

P3.4 :5つの機能の具体的な内容の説明。(相談、緊急時の受け入れ、体験の機会・場、専門的人材の確保・養成、地域の体制づくり)

来年度4月よりスタートする予定だが、5つの柱を一斉にスタートすることは難しいため、ひとつずつでも開始していくことができるように進めている。

P5.6 :委託相談支援事業所の地域割りについての説明。

P7 :図の説明。

真ん中に本人家族、相談の仕組み。指定特定、委託、基幹の三層構想をイメージしている。地域を7地域に分けて、地域の窓口をつくる。7地区に分けてまとめていくのが、基幹型(令和3年度から市直営で実施予定)となる。

- ・予算を伴う事業であり、3月の議会で承認が必要なため、現在は案となっている。
- ・^{がい}障害福祉基金を活用して、地域生活支援拠点等の機能整備を予定している。('障害者相談支援事業者への時間外緊急待機手当」「緊急受入事業委託(空床確保)」「緊急対応支援事業扶助料(緊急ヘルパー派遣)」)

<各委員からの意見>

- ・三田市でも概ね同様の体制である。
- ・特定事業で契約している利用者が地区割となれば、担当地域の相談支援事業所へ変更になるのか?との質問に対し、^{がい}障害福祉課より、特定相談支援事業所は変更とならないことの説明がある。

○共同受注窓口について（宝塚市共同受注窓口 委員より）

- ・2月時点の実績で4,277,640万円、前年比113%となっている。
- ・年度の見込みとしては、140%程度となる見込みである。
- ・会員数は28事業所。（1事業所入会、1事業所退会）
- ・6月～専任の事務員の雇用開始している。（月～金 9：00～18：00）
- ・コロナの影響により、行事での販売、海外需要からの内職、冠婚葬祭関係の仕事などの受注は無かったが、宝塚市役所各課からの仕事や、コロナ関係でのマスク梱包の仕事などの大口の受注があった。1事業所では受けきれないような、大きな受注を受けていくためにも、会員数を増やしていきたい。

○今年度の活動について（部会長）

- ・コロナ禍でイベントが中止となったが、しごと部会として何かできないかと三役で検討をした。
- ・合同事業所説明の代わりに、宝塚市のHPの自立支援協議会のページで、市内の福祉事業所の一覧を作成し、詳細や動画もつけることで、イベントができない状況でも情報提供の場ができるのではないかと考えた。
- ・宝塚市障害福祉課とも協議をしたが、一覧を整備することは可能であるが、「継続的なメンテナンス」「動画の編集」「手話通訳を載せる必要がある」「費用」など、超えなければならぬハードルが明確になり中断となったが、「進路先の情報を知りたい・見たい」というニーズは確実にあると考え、次年度の一つの課題として持ち越しとしたい。
- ・市のHPにこだわらず、新たに自立支援協議会のHPを作ることや、グッドジョブが持っているHPを借りるなど、いろいろな手段・方法を議論していくことが必要。
- ・毎年、100名前後の来場者を維持しているが、費用も掛かっているため、費用に見合う効果があるかの検証も必要。

<各委員からの意見>

- ・費用対効果まで考えるのは難しいとは思いますが、福祉を支える上では、仕組みや機能が必要と考えており、継続は必要。
- ・学校としては、合同事業所説明会は保護者の側面から捉えるとニーズは必然。合同説明がないと情報が得られず困る保護者も多く、継続は必要。
- ・育成会でアンケートを取った。合同事業所説明会は貴重な情報となるため、是非とも続けてほしい。子供の大事な進路を見るところということは重要なため、一同に集めて話をできる機会はとても有意義である。
- ・西宮市は毎年ガイドブックを作成しているが、かなりの費用も掛かっている。宝塚市としてどこまでできるか？効率よく情報を発信・提供する手段として、インターネットの活用は有効である。

- ・伊丹も例年説明会がある。(今年度は開催できず) ペーパーで一覧表を作って配布している。配布に合わせて、伊丹市の HP にも PDF を上げている。西宮市はかなり予算をかけていると思うが、一覧の紙と HP でダウンロードできる仕組みであれば手軽で安価にできるのでは。

3. 検討事項

○次年度の活動について (部会長)

- ・「事業所合同説明会のあり方と検証」に加えて、「雇用促進のセミナー」についても考えたい。市内の中小企業の方へ、ちょっとした工夫で障害者雇用ができることを啓発する目的であったが、企業の参加が少ないことが例年の課題であり、今後の検証は必要かと思っている。
- ・2 年ほど前から取り組んでいる、「複数の専門部会の横断的取り組み」について、今年度取り組むことができなかつたため、再度検討し、進めていきたい。
- ・横断的な取り組みについては、各部会からの反対意見もなく、木下会長からも「自立支援協議会の活発化に期待している」とお言葉をいただいている。

<各委員からの意見>

- ・次年度に向けて、コロナの影響も視野に入れて、適切な方法を検討する必要がある。
- ・横断的な取り組みで、必要なことだと思う。地域生活支援拠点が進む中で、横断的な取り組みは必須。専門的な知識や情報は必要になる。各部会が横断的に取り組もうという意識をもちながら実施することが大事である。

<次年度の取り組み>

- 1、イベントの検証と検討
- 2、横断的取り組みについて

○次年度役員体制について (部会長)

- ・部会長より、部会長の職を辞したいとの申し出がある。また、次年度の役員体制については、三役へ立候補者を募り、その 3 名の中から、役職を決めてはどうかとの提案あり、各委員より承認される。
- ・委員 1 名より立候補があり、各委員より承認される。
- ・役職については、新三役で検討し、次年度の第一回部会で報告・承認を得て、最終木下会長の承認を得て、決定となる。

○次回の開催について

- ・通常は、奇数月の第 3 木曜日であるため、「令和 3 年 5 月 20 日」開催予定とする。
- ・委員が変わる場合は、必ず事務局もしくは^がいは障害福祉課へ連絡するよう依頼。